

岡山県感染症週報 2026 年第 36 週 (8 月 31 日 ~ 9 月 6 日)

9 月 24 日~30 日は「結核・呼吸器感染症予防週間」
および「非結核性抗酸菌症啓発週間」です

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

◆2026 年 第 36 週 (8 / 31 ~ 9 / 6) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第 36 週届出分)

第 34 週	5 類感染症	梅毒	2 名 (10 代 男 1、20 代 男 1)
第 35 週	4 類感染症	レジオネラ症	1 名 (50 代 男)
	5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1 名 (幼児 男)
		梅毒	1 名 (50 代 男)
第 36 週	2 類感染症	結核	4 名 (20 代 女 3、90 代 男 1)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4 名 (O103 : 20 代 男 1、O121 : 60 代 男 1、O157 : 幼児 女 1、小学生 女 1)
	4 類感染症	日本紅斑熱	1 名 (70 代 女)
		レジオネラ症	1 名 (40 代 男)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (40 代 男)
		梅毒	4 名 (20 代 男 2、40 代 男 1、80 代 男 1)
		百日咳	1 名 (小学生 男)

食中毒注意報
発令中!



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数 : ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 100 名 (定点あたり 2.00 人) の報告がありました。
- 急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で 2,091 名 (定点あたり 41.82 人) の報告がありました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告が多くなっています。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 100 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 1.68 → 2.00 人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で 2,091 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 38.28 → 41.82 人)。詳しくは、「[☆急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報』](#) をご覧ください。
3. [腸管出血性大腸菌感染症](#) は、2026 年第 36 週に 4 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 65 名となりました (2025 年の同時期 : 56 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!』](#) をご覧ください。
4. [日本紅斑熱](#) は 2026 年第 36 週に 1 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 8 名となりました (2025 年の同時期 : 14 名)。ダニが媒介する感染症として、他に [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や [つつが虫病](#) などがあります。これらは、病原体を保有するツツガムシまたはマダニに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については [コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」](#) をご覧ください。
5. [梅毒](#) は、2026 年第 36 週に 4 名の報告があり、2026 年の累計報告数は 120 名となりました (2025 年の同時期 : 185 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『梅毒について』](#) をご覧ください。

流行の推移

疾病名	定点あたり 報告数		推移	疾病名	定点あたり 報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.34	0.42	↗	突発性発しん	0.54	0.25	↘
COVID-19	1.68	2.00	↗	ヘルパンギーナ	0.18	0.50	↗
急性呼吸器感染症(ARI)	38.28	41.82	→	流行性耳下腺炎	0.04	0.04	→
RSウイルス感染症	0.11	0.36	↗	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	→
咽頭結膜熱	0.29	0.50	↗	流行性角結膜炎	0.00	0.08	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.75	1.61	→	細菌性髄膜炎	0.20	0.20	→
感染性胃腸炎	3.21	3.21	→	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.32	0.11	↘	マイコプラズマ肺炎	0.40	0.40	→
手足口病	1.00	0.61	↘	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	0.04	0.04	→	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移

↗ : 増加

→ : ほぼ増減なし

↘ : 減少

増加・減少 : 前週比10%以上の増減

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！

➤ 「清潔」（菌をつけない）

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう（腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します）。

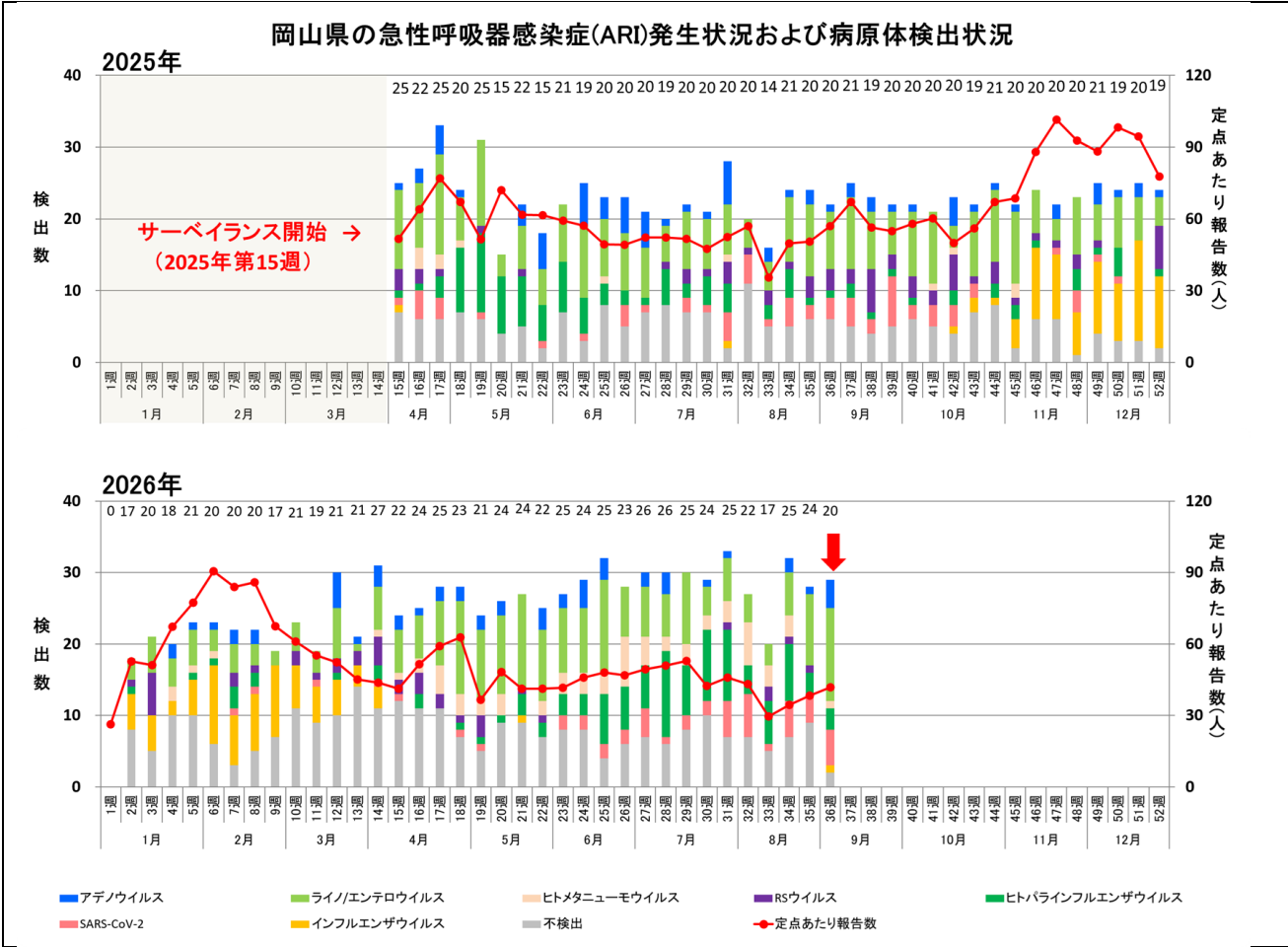
[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第 36 週（ 8 / 31 ～ 9 / 6 ））



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,091 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 38.28 → 41.82 人）。地域別では、備中地域（72.60 人）、岡山市（50.89 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

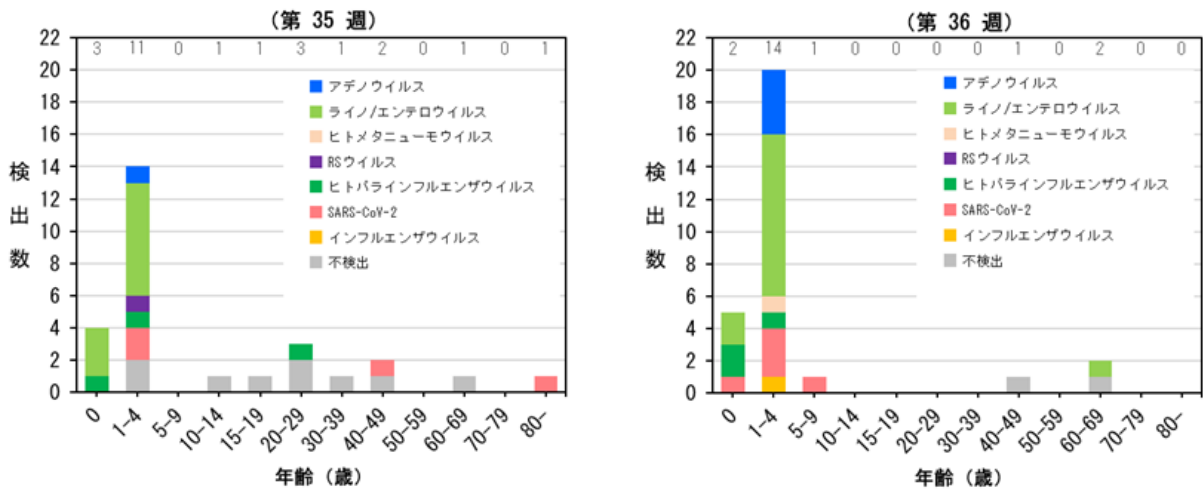
2026 年第 35 週および第 36 週に採取された検体から検出された病原体は 46 株でした（詳細は次表参照）。

【第 35 週および第 36 週 岡山県環境保健センターにおける病原体検出状況】

	第 35 週	第 36 週	計*
検体数（うち不検出数）	24(9)	20(2)	44(11)
インフルエンザウイルス	0	1	1
SARS-CoV-2	4	5	9
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	3	6
RS ウイルス	1	0	1
ヒトメタニューモウイルス	0	1	1
ライノ/エンテロウイルス	10	13	23
アデノウイルス	1	4	5
計	19	27	46

* 重複あり

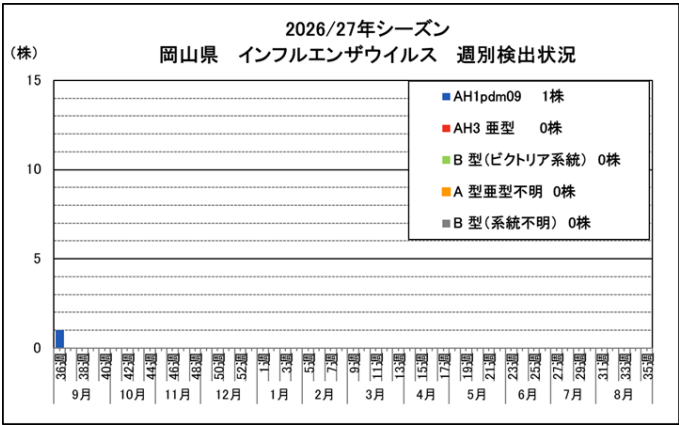
○年齢別病原体検出状況



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
※グラフ上部の数字は各年齢別の検体数を示しています。
※急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体定点医療機関数: 5 医療機関 (内科定点 2、小児科定点 3)

2. インフルエンザウイルス検出状況

2026 年第 36 週に新たに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 1 株で、AH1pdm09 でした。



3. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）](#)

9月24日～30日は『結核予防週間』です

～ 令和の日本にも、結核はあります（結核予防週間標語） ～

結核は過去の病気ではありません。日本では今でも年間 **9,000 名以上**の新しい患者が報告され、**1,400 名以上が命を落としている** 重大な感染症です。結核患者の多くが高齢者で、新たに結核患者として登録された方のうち **60 歳以上の方の割合が約 6 割**に上っています。一方で、若年層（特に 20 歳代）の新登録患者数が外国生まれの患者の増加によって増えていることも注目されます。

毎年 **9 月 24 日～30 日**は「**結核予防週間**」です。今一度、この機会に結核について理解を深めましょう。岡山県では、各保健所での啓発や相談など各種活動に取り組んでいます。

結核についてのご相談は、管轄の保健所へ → [岡山県保健所管轄区域案内（厚生労働省）](#)

たとえば、このようなことに心当たりはありませんか？



© 岡山県「ももっち・うらっち」

- ☑ **痰のからむ咳が 2 週間以上**続いている。
- ☑ **微熱・身体のだるさが 2 週間以上**続いている。

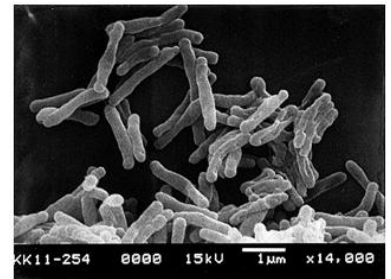


このような症状が続いたら、**結核**かもしれません。
早めに医療機関を受診し、**いつもの風邪と違うところ**を医師に伝えましょう。

注）高齢者の方は典型的な症状が出ない場合もあります。定期的な健診が重要です。

【結核とは】

結核菌が体の中に入ることによって起こる感染症です。患者のくしゃみや咳の際に、体外に排出された結核菌が空気中に長時間漂い、それを周りの人が吸い込むことによって感染します（飛沫核感染）。感染してもほとんどの場合は免疫で抑えられますが、吸い込んだ結核菌の量が多かったり、免疫が低下していたりする場合は発病することがあります。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともあります。初期には無症状のこともあります。肺以外のリンパ節、腎臓、骨、腸、脳など様々な臓器に病巣を作ることがあります。



結核菌の電子顕微鏡写真：公益財団法人結核予防会結核研究所疫学情報センターホームページより

【結核の予防接種や健診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後 1 歳までには、必ず BCG ワクチンを接種するようにしましょう。

（予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください。）

また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1 年に 1 回は健診を受けましょう。

[「BCG ワクチン」（厚生労働省）](#)

< 一般 向 け > [結核について（公益財団法人 結核予防会 結核研究所）](#)

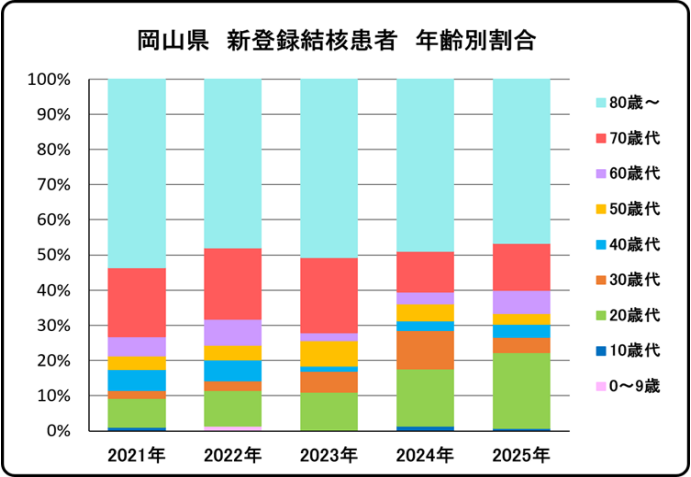
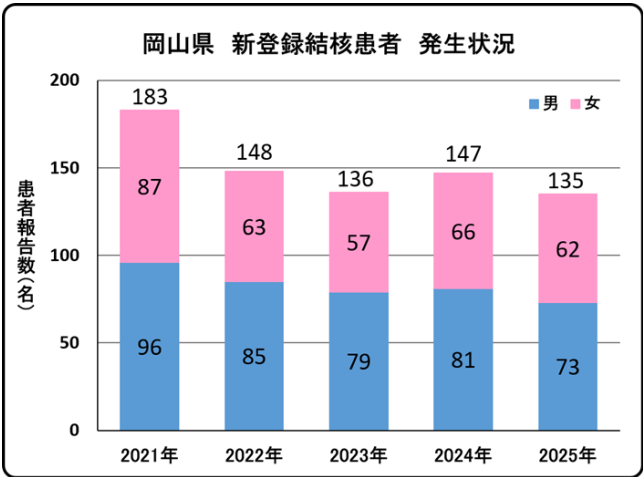
< 医療従事者向け > [結核医療相談・技術支援センターを開設しています！（岡山県疾病感染症対策課）](#)
[結核（岡山県感染症情報センター）](#)

結核の発生状況

【2025 年の岡山県の発生状況】

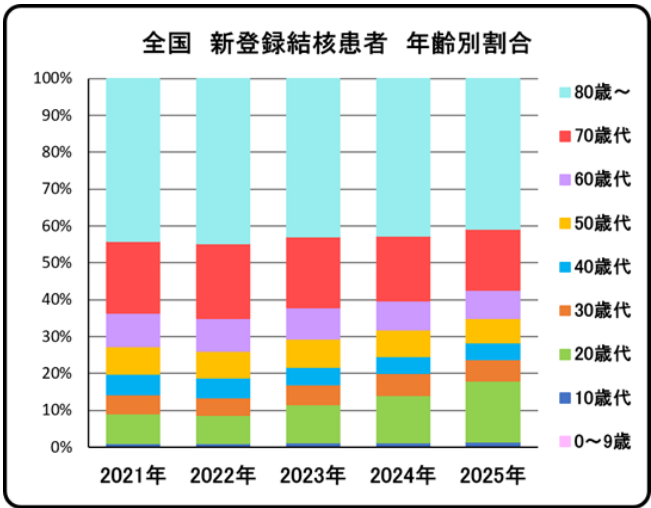
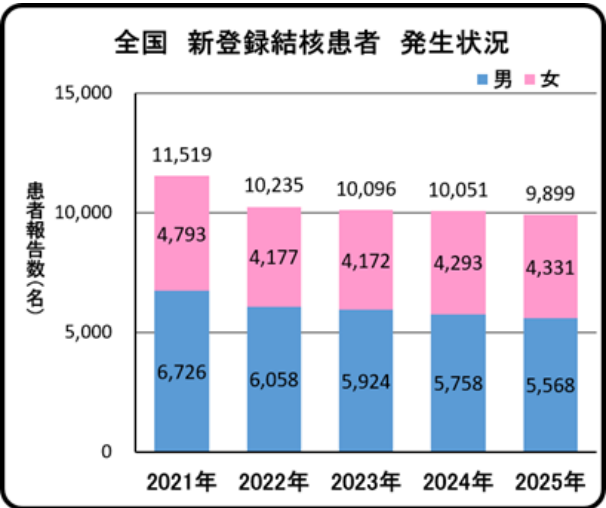
2025 年の岡山県で新たに登録された結核患者（新登録結核患者）は 135 名で、2024 年の 147 名から微減しました。2025 年の岡山県の結核り患率（人口 10 万あたり）は 7.5 と、2024 年の 8.0 から 0.5 減少しました。2025 年は 2024 年より減少しましたが、引き続き注意が必要です。

年齢別では 80 歳以上が最も多く新登録結核患者の約半数を占めていますが、若年層（特に 20 歳代）が占める割合の増加も見られます。



【2025 年の全国の結核発生状況】

全国の新登録結核患者は 9,899 名で、2024 年の 10,051 名とほぼ同数でした。年齢別では、60 歳以上の新登録結核患者が全体の 60%以上を占めている状態が続いています。日本は、2025 年の結核り患率が 8.0 と、前年から 0.1 減少となっています。2021 年に中まん延国から低まん延国（10 以下）となり、2025 年も継続しています。都道府県別の結核り患率は、大阪府（13.4）が最も高く、次いで徳島県（10.5）、岐阜県（10.4）の順となっており、岡山県（7.5）は全国で 24 番目となっています。



9月24日～30日は『呼吸器感染症予防週間』です

～ 正しく知ろう、呼吸器感染症のコト（呼吸器感染症予防週間標語）～

新型コロナウイルス感染症をはじめとした呼吸器感染症は、空気を介して広がり、大流行を起こすことから世界的な課題となっています。

呼吸器感染症について正しい知識を広め、予防に取り組むため、令和6年度から「結核予防週間」と同時期の9月24日～30日を「呼吸器感染症予防週間」としています。

呼吸器感染症には新型コロナウイルス感染症や季節性インフルエンザ、RSウイルス感染症、細菌性肺炎などがあります。これらの呼吸器感染症の多くは感染した人から咳などで体外に排出された飛沫を吸い込むことで感染します。

これから呼吸器感染症が流行する秋・冬を迎えますが、マスク着用を含む咳エチケット、手洗い・手指消毒、換気など基本的な感染対策を心がけ、呼吸器感染症を予防しましょう。



© 岡山県「うらっち」

9月24日～30日は『非結核性抗酸菌症啓発週間』です

～ 長引く咳に、NTM 症という視点を（非結核性抗酸菌症啓発週間標語）～

非結核性抗酸菌症（NTM 症）は、近年、結核のり患率を上回り、増加傾向にあることから、令和8年度から、「結核予防週間」及び「呼吸器感染症予防週間」と同時期に「非結核性抗酸菌症啓発週間」を新設し、正しい知識の普及を進めています。

NTM 症は、長引く咳や痰、発熱、倦怠感、体重減少などのさまざまな症状がみられますが、結核とは異なり、通常は人から人へ感染しません。咳や痰が長引く、息苦しさが続くなどの症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

[非結核性抗酸菌症（NTM 症）（厚生労働省）](#)

[結核・呼吸器感染症予防週間及び非結核性抗酸菌症啓発週間（厚生労働省）](#)

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)※、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱 \(国立健康危機管理研究機構\)](#)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [つつが虫病 \(国立健康危機管理研究機構\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立健康危機管理研究機構\)](#)



吸血後の
フタトゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

国内での麻しんの報告数が増えています

2023年以降「麻しん(はしか)」の世界的な流行が続いており、海外からの輸入リスクが高まっています。その影響で、国内の報告数も増加(前年同時期比2.5倍(2026年9月2日時点))しており、引き続き注意が必要な状況です。

発生動向

- ・国内の患者は10-30代を中心にみられ、医療機関や学校、公共交通機関など、人が集まる場所での感染も確認されています。
- ・10-30代の患者では、2回のワクチン接種が済んでいない方や接種歴不明の方が約半数を占めていました。

お願いしたいこと

- ・麻しんワクチンの2回接種が確認できない場合は、医療機関にご相談ください。
- ・麻しんの流行がみられる国や地域に渡航する方は、接種歴を確認し、2回接種が確認できない場合は、渡航前の接種を検討ください。
- ・発熱、発しん、せき、鼻水、結膜充血など、麻しんが疑われる症状がある場合は、事前に医療機関へ連絡したうえで受診し、渡航歴や接触歴があればお伝えください。

[麻しん\(はしか\) \(厚生労働省\)](#)

海外渡航者への麻しんの注意喚起(厚生労働省)

[海外へ渡航される方へ](#)
[海外から帰国された方へ](#)



©岡山県「ももっち」

保健所別報告患者数 2026年 第36週(定点把握) (2026/08/31～2026/09/06)

2026年9月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	21	0.42	8	0.44	5	0.42	4	1.00	2	0.40	2	0.50	—	—	—	—
COVID-19	100	2.00	44	2.44	26	2.17	17	4.25	8	1.60	3	0.75	—	—	2	0.40
急性呼吸器感染症	2091	41.82	916	50.89	464	38.67	154	38.50	363	72.60	85	21.25	16	8.00	93	18.60
RSウイルス感染症	10	0.36	5	0.50	5	0.71	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	14	0.50	7	0.70	—	—	—	—	6	2.00	—	—	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	1.61	21	2.10	8	1.14	6	3.00	6	2.00	—	—	1	1.00	3	1.00
感染性胃腸炎	90	3.21	53	5.30	11	1.57	3	1.50	12	4.00	5	2.50	—	—	6	2.00
水痘	3	0.11	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	17	0.61	8	0.80	2	0.29	3	1.50	3	1.00	1	0.50	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.04	—	—	—	—	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
突発性発しん	7	0.25	2	0.20	2	0.29	—	—	2	0.67	—	—	—	—	1	0.33
ヘルパンギーナ	14	0.50	10	1.00	2	0.29	1	0.50	1	0.33	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2026年 第36週(発生レベル設定疾患)

(2026/08/31～2026/09/06)

2026年9月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	21	0.42	8	0.44	5	0.42	4	1.00	2	0.40	2	0.50	—	—	—	—
咽頭結膜熱	14	0.50	7	0.70	—	—	—	—	6	2.00	—	—	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	1.61	21	2.10	8	1.14	6	3.00	6	2.00	—	—	1	1.00	3	1.00
感染性胃腸炎	90	3.21	53	5.30	11	1.57	3	1.50	12	4.00	5	2.50	—	—	6	2.00
水痘	3	0.11	1	0.10	2	0.29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
手足口病	17	0.61	8	0.80	2	0.29	3	1.50	3	1.00	1	0.50	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.04	—	—	—	—	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	14	0.50	10	1.00	2	0.29	1	0.50	1	0.33	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2026年 第36週 2026/08/31～2026/09/06)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	21	－	－	1	4	－	2	－	－	－	2	2	2	－	2	－	1	－	2	2	1
COVID-19	100	3	4	14	10	12	9	6	4	2	2	3	9	1	2	1	7	4	1	1	5

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	2091	167	1076	392	106	33	50	60	39	36	49	43	40

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	10	2	2	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	14	-	-	3	2	2	1	1	3	-	1	-	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	-	-	3	2	5	6	-	6	7	4	5	5	-
感染性胃腸炎	90	1	6	20	6	7	10	7	6	5	5	2	8	5
水痘	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
手足口病	17	2	3	1	5	3	1	-	-	-	-	1	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	7	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	14	-	4	3	2	4	-	-	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2026 年 第 36 週

分類	疾病名	2026		2025	疾病名	2026		2025	疾病名	2026		2025
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	4	159	237	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	中東呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	4	65	95
	腸チフス	－	1	－	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	4	4	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	1	2
	エキノкокクス症	－	－	－	エムボックス	－	－	－	黄熱	－	－	－
	オウム病	－	－	－	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－
	キャサヌル森林病	－	－	－	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－
	コクシジオイデス症	－	－	－	ジカウイルス感染症	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	3	8
	腎症候性出血熱	－	－	－	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－
	炭疽	－	－	－	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	－	－
	デング熱	－	－	1	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－
	ニパウイルス感染症	－	－	－	日本脳炎	－	－	－	日本紅斑熱	1	8	19
	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－
	ブルセラ症	－	－	－	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－
	発しんチフス	－	－	－	ポツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	－
	野兔病	－	－	－	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	1	39	58
	レプトスピラ症	－	－	1	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	1	5	8	ウイルス性肝炎	－	1	2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	－	8	20
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	－	－	2	急性脳炎	－	9	14	クリプトスポリジウム症	－	－	－
	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	11	21	後天性免疫不全症候群	－	4	9
	ジアルジア症	－	－	－	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	7	9	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	－	38	55	水痘(入院例に限る。)	－	11	6	先天性風しん症候群	－	－	－
	多剤耐性緑膿菌感染症	－	1	－	梅毒	4	120	253	播種性クリプトкокクス症	－	－	3
	破傷風	－	1	－	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	－
	百日咳	1	92	2148	風しん	－	－	－	麻しん	－	－	5
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－

